

令和7年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

『チャレンジ・つながる・自立』を合言葉に、「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」を活用して、家庭や地域、関係機関等と連携を深めながら、障がいのある生徒一人ひとりの可能性を最大限に伸ばし、自立と社会参加に必要な資質・能力を培う教育を推進する。	
○ チャレンジ	： 未来の「なりたい自分」「ありたい姿」に向かって、粘り強く挑戦していく姿勢を育む学校
○ つながる	： 多様な学びの機会を通じて、自他のよさや違いを認め合い、尊重する意識・態度を育てる学校
○ 自立	： 他者と協働しながら主体的に役割を果たし、自分らしく社会に貢献していく力を育てる学校

2 中期的目標

1 自己実現と社会参加を促進するキャリア教育の充実 （１）主体的な進路選択の実現に向けて、キャリア教育を教育課程の中核に位置づけ、地域や関係機関等と連携しながら組織的・計画的に取り組む。 学校経営推進費（Ｒ７）『学びのエンゲージメントを高め、自己実現を叶える泉北レモンプロジェクト ～ 地域とつながり、地域で活躍するキャリア教育 ～ 』３年目（Ｒ９）の評価指数 ・喫茶室完成、地域コミュニティの拠点として運用開始、食品提供（接客・販売） ・レモンデザイン考案 ・レモン活用の製品開発 ・各教科で泉北レモンPJに関連した学習を推進：学校教育自己診断（生徒）「授業で自分の考えをまとめたり、発表することがある」肯定的評価 91%（Ｒ７：82%） ・泉北レモンPJを通した他校との連携開始：学校教育自己診断（生徒）「授業や行事で、他の学校や近所の人と交流がある」肯定的評価 54%（Ｒ７：45%） ・教員研修で授業の実践を確認：学校教育自己診断（教職員）「学習指導について、学年・教化・学習グループでよく話し合っている」肯定的評価 90%（Ｒ７：81%） （２）学校間や異校種間、地域との相互交流の機会を設定し、交流及び共同学習を積極的に進める。 （３）外部の専門人材の活用を通して、授業や部活動におけるスポーツや文化芸術活動等の充実を図る。	
2 専門性の継承・向上のために学び続ける教職員集団の形成 （１）生徒の状況や学校・地域の実態に応じて、適切な教育課程を編成するとともに、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する。 （２）主体的・対話的で深い学びの実現をめざして、実践事例の共有や検討等を行い、組織的に授業改善を図る。 （３）計画的な教職員研修の実施や受講、首席や指導教諭等を活用した日常的なOJTの推進により、教職員全体の指導力向上を図る。 （４）センター的機能の発揮と内容の充実によって、校内外の指導・支援体制のさらなる強化につなげる。	
3 安全・安心で信頼される学校づくりの推進 （１）豊かな人権感覚・人権意識をもって、あらゆる場面で人権を尊重する教育を実践する。 （２）いじめ、体罰、性暴力等、重大な人権侵害事象の防止・根絶に向けて、組織的な取組みを一層推進する。 （３）家庭や地域と連携して、防犯・防災教育の充実を図り、緊急事態に備えた危機管理体制の確立をめざす。 （４）開かれた学校づくりの観点から、授業参観や公開研修等の機会拡大、学校Webページ等の活用を通して学校情報の公表を進める。	
4 働き方改革の推進 （１）校務運営の効率化をさらに進め、長時間勤務の縮減を図る。 （２）労働安全衛生活動の活性化に努め、教職員の意識改革を推進する。 ※上記（１）（２）の取組みにより、令和9年度には教職員向け学校教育自己診断結果における「会議の効率化」に関する肯定的回答を90%以上とする。 〔R4 64.9%、R5 85.9%、R6 85.3%〕	

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和7年12月実施分〕	学校運営協議会からの意見
○回収率：生徒 18.2%（42.9P 減）、保護者 47.5%（14.8P 減） 教職員 100%（同） 【キャリア教育の充実】 泉北レモンPJにおいては、学校経営推進費を活用し、調理室の改修や装飾、家具の組み立てから調理に至る一連の活動を教育活動として明確に位置付けた。これにより、教科学習や進路指導と関連付けた実践的な学習を展開することができ、生徒が役割を意識しながら主体的に活動する機会が増加するなど、一定の成果が見られた。 一方、今年度から学校教育自己診断をWEB回答方式としたことにより、回答回収率が低下したことも影響し、生徒の肯定率は79.9%となった。数値結果については、調査方法の変更による影響を踏まえ、慎重に解釈する必要がある。 「進路指導」に関する項目では、令和7年度は就労支援コースの在籍生徒数が少なかったことに加え、進路指導を得意とする教員の異動等もあり、肯定率は75%にとどまった。この結果から、特定の教職員の力量に依存するのではなく、学校全体で進路指導を支える体制づくりの必要性が明らかとなった。 また、「交流の機会」については、日程変更により交流実施時期が12月以降となったことや、結果として参加が実現しなかった交流があったことが影響し、肯定率は50%にとどまった。一方で、実施できた学校間交流では生徒から肯定的な意見が多く寄せられており、事前の準備や調整を十分に行うことにより、学習効果を高められる可能性が示された。 以上の結果から、進路指導や交流活動については、学年構成や人的配置、年間計画上の位置付け等、学校運営上の要因が肯定率に影響していることが明らかとなった。 次年度に向けては、校内OJTを計画的に実施し、進路指導に関する指導内容や支援方法の共通理解を進めるとともに、交流活動については早期に事前協議を行い、年間計画に明確に位置付ける。また、学校教育自己診断についても、WEB回答方式の利点を生かしつつ、回答時間の確保や趣旨説明の工夫により、回収率と回答の質の向上を図り、教育活動の成果を的確に把握していく。 【専門性の継承・向上】 学習指導要領に示されている教科横断的な学びについて、本校では泉北レモンPJにおいて「泉北レモン」を共通の題材として位置付けることで、各教科・領域の学習内容を相互に関連付けた指導を行い、生徒の学びに広がりをもたせることができた。教職員にとっても、教科横断的な視点での指導の在り方を共有する機会となった。 自立活動の指導の充実に関しては、事例検討会において梅花女子大学の関喜教授から助言を受け、生徒理解に基づく支援の在り方や具体的なアプローチ方法について研究を深めた。また、本校がセンター的役割を果たす取	【第1回令和7年7月3日（木）】 【教科書の採択について】 ・知的障がいの生徒向けに作られた文科省が推薦している教科書を使用しているのか→文科省指定のものは小中学校で使用していることが多く採択が難しく、一般教科書から選定しているものもある。「ひとりだち」シリーズは知的障がいの生徒用に作られた教科書なので採用している。 【泉北レモンプロジェクトおよび地域連携について】 ・レモンは育てやすいか→この地域の気候は栽培に適している ・実習とは異なる実践の場が設けられ、一貫したサイクルの取組みの中に生徒が活躍する場面が作られているのがよい。全ての生徒が活躍できる取組みを整える必要がある。 ・中学校でも進路先である本校の取組みについて子どもたちに伝えていきたい。 ・教科横断的なカリキュラムの編成は大変そうだが教員が楽しみながら考えることができたらいよい。 ・取組みを通して子どもたちに様々なことに興味をもってほしい。社会人になって仕事に興味を持てるような取組みとなることを期待する。 ・レモンプロジェクトをキャリア教育に位置付けているのが素晴らしい。多様な子どもたちがそれぞれ活躍できる場を作り、地域のムーブメントと連動した。何年後には地域の子どもたちがレモンを通じて働く場ができる、地域が活性化される中心に泉北高等支援があればよい。 ・開かれた学校。様々な機関、地域の方と連携とっているのがよい。 ・販売実習はみなみかぜだけでなく、原山の地域会館での販売もよければしてほしい。 ・今後も原山台元気まつり、原山まつりへの出展や出演等を通じて地域連携を図ることができたらよい。 【人権教育について】 ・生徒が加害者にも被害者にもならないための研修や取り組みを、上神谷支援学校にも共有してほしい。 ・SNSの利用方法について良し悪しの線引きが難しい部分がある。その部分を子どもたちとの話し合いによってルールなどの取り組みを行っている。なぜグレーで線引きが難しいのかなども子どもたちと話し合い、研修することができたらよい。 ・事案に関する研修の内容について、性に関するだけでなく、対人関係、暴力につながる研修なのでよいと感じた。 【働き方改革について】 ・教職員の心身の健康増進プログラムが教員たち発信で企画されているのがよい。上神谷支援学校でも取り入れていけたらと考える。 ・時間外での電話対応などもあると思うが、少しでもゆとりをもって教員が働くことができたらよいと感じる。ストレス軽減できるよう、業務を減らすことができたらよい。 【防災対策について】 ・地域も昨年度より学校の防災研修に参加し、「地区防災計画」を作成中である。地域の福祉避難所としてどう開設、運営していくか課題がある。今年度も学校の防災訓練に地域も参加したい。

組みとして、第2回の事例検討会を公開研修として実施するとともに、「課題整理・目標設定シート」を本校ホームページに掲載し、校内外への成果の共有を行った。これにより、自立活動に関する専門的理解の向上が図られた。

一方、「人材育成」に関する項目では、初任者をはじめとする経験の少ない教職員を学校全体で育成するという点において、肯定率が前年度より4ポイント低下した。背景として、今年度は経験年数の浅い教職員が少なかったことも考えられるが、教職員構成の変化を踏まえた育成・支援の在り方について改善の余地が示された。

これらの結果を踏まえ、次年度に向けては、泉北レモンPJを軸とした教科横断的な学びをさらに体系化するとともに、事例検討会等で得られた知見を校内研修や学年会で共有する。あわせて、ICTを活用した情報共有を進め、学校全体で専門性を継承・向上させる組織的な人材育成体制の構築をめざす。

【安全・安心で信頼される学校づくり】

本校では、人権を尊重する学校づくりの一環として、SNS等の利用に伴うネットトラブルの未然防止および対応に関する取組みを進めてきた。生徒への指導に加え、校内WGを中心とした教職員研修を実施し、インターネット上における人権侵害事象やトラブルへの理解を深めるとともに、組織としての対応力向上に努めてきた。

その結果、生徒・教職員ともに、ネットトラブルや人権問題に対する基礎的な知識や危機意識を高めることができた。一方、学校教育自己診断における保護者の回答では、「いじめなどの人権侵害事象について学校が真剣に対応しているか」という項目において、「わからない」とする回答が37.5%を占めた。

この結果は、学校として対応体制を整備し、教職員間で共通理解を図っているものの、その姿勢や具体的な対応の流れが、保護者に十分伝わっていない可能性を示している。人権侵害事象は個別性が高く、事案の性質上、詳細な説明が難しい場合もあるが、学校としての基本方針や対応の考え方については、より分かりやすく示していく必要がある。

次年度に向けては、いじめ防止基本方針や人権侵害事象への対応フローを整理し、学校ホームページや保護者向け文書等を通して周知を図る。また、保護者説明会や懇談等の機会を活用し、学校の対応方針について丁寧に説明することで、保護者との信頼関係の構築を図る。あわせて、SNSを含むネットトラブルに関する啓発についても、家庭との共通理解を深め、安全・安心で信頼される学校づくりを進めていく。

【働き方改革】

「校内人事・校務分担の適正化」に関する項目では、肯定率が66.1%にとどまった。校務内容の整理や業務改善を進めてきた一方で、教職員一人ひとりの勤務形態や役割の多様化に十分対応しきれていない現状が、この結果に影響していると考えられる。

本校では、校務の効率化や負担軽減を目的として校務分担の見直しを行ってきたが、分掌の固定化や特定の教職員への業務集中といった課題が依然として見られる。また、校務の目的や意義について十分に共有できていない場面もあり、校務に対する負担感や納得感に差が生じている状況がうかがえる。

府立学校においては、文書管理や情報共有等を目的としたクラウドサービスの導入・整備が進められており、校務運営におけるICT活用の環境は着実に整いつつある。本校においても、これらのツールを単なる利便性向上の手段にとどめず、校務の進行状況や役割分担を可視化するための手段として活用することで、組織全体の業務理解を深めることができると考えられる。

次年度に向けては、教職員の経験年数や専門性、勤務状況等を踏まえた校内人事および校務分掌の編成を行うとともに、ICTを活用した業務の効率化を進める。これにより、教職員が互いに相談・協働しやすい職場環境を整え、持続可能な校務体制の構築をめざしていく。

【全体総括】

本校では、学校経営推進費を活用した泉北レモンPJを軸に、生徒の主体性を育むキャリア教育の充実や、教科横断的な学びの推進、自立活動における専門性向上を図ってきた。また、人権を尊重する学校づくりや校内研修の充実を通して、安全・安心な教育環境の整備にも一定の成果が見られた。一方、進路指導や交流活動、人材育成、校務分担の在り方については、人的配置や運営体制、情報共有の方法等が肯定率に影響していることが明らかとなった。これらの課題を踏まえ、次年度は組織的な指導体制の強化、保護者との連携の充実、ICTを活用した業務改善を進め、教育活動の質の向上と持続可能な学校運営をめざしていく。

【第2回 10月30日（木）】

泉北レモンプロジェクトを中心とした本校の取組みについて

- ・外部講師を多く活用しているのが印象的。学校外の方と関わるのは良い取組み。外部人材を活用し、生徒だけでなく、教員の専門性向上にも力を入れていると感じた。
- ・泉北レモンについて、大学ではマーケティングの学習で南海電鉄と連携をとっているが、泉北レモンはまだ浸透していないようだった。今後レモンの取組みを通してマーケティング、ブランディング、プロモーションを行い、地域に浸透していけるように取り組んでいけたらよりよい。
- ・授業参観等で泉北レモンプロジェクトが進んでいるように見受けられる。子ども向けに外部人材の活用や、教員研修を行っていることに対して良いと思う。

【いのちの安全教育について】

- ・「いのちの学習」についてどのような内容か中学部でも性に関する課題のある生徒もいる。女子生徒に触ってしまうこともあるので参考にしたい。
- ・性教育に関する教材が泉北高等支援学校HPにあがっている。あまりそのような学校はないので、泉北高等支援学校の財産となる取組み。現在の社会、性教育の必要性が高まっている。プレコンセンション（妊娠前～妊娠期）から出産、出産後の父・母が産後うつにならないようにしていくという教育、理解が必要となっている。
- ・アドプトロードの活動について、近隣の方から感謝の電話があった。あいさつ運動については活動を知らなかったので、今後行う際は教えていただきたい。

→また連絡する旨をお伝えする。

【校務について】

- ・子ども会の加入者、PTA 役員を引き受けてくれる人が地域の小学校では減少している。本校ではどうか。

→本校でも役員を引き受ける人がいないため、縮小する方向で考えている。

- ・学習支援連絡網とはどのようなものか。

→保護者や教職員に連絡物や配付物を一斉配信するツールアプリである。

- ・保護者からのクレームや要望はあるか。学習支援連絡網で保護者から意見はできるか。

→現在クレームのようなものはない。マチコミは基本的に一方通行。保護者の方との対応については17時で電話は留守番電話に切り替わる。現在は保護者の方々にご理解いただいているので特にない。

- ・「センター的機能」について地域の小中学校に何かしているのか。

→本校からも地域の小学校にリーディングスタッフが支援・助言を行っている。

【防災対策について】

- ・堺市南区役所から福祉避難所の開設に関連するので、今後本校で避難訓練等するときは堺市南区にも連絡を入れてほしいと自治会にあった。

→これまで堺市と連携をとり防災訓練に参加していただいていたが、今後は南区も抱き込んで行うよう取り組む。

- ・図上訓練はしているのか。実践的な避難訓練は行うか。

→9月に実践的な避難訓練を行った。福祉避難所開設については、すぐには受け入れできないので、校内に立ち入り禁止などの看板を出すなどの実践訓練も行った。

- ・防災訓練への地域の参加を今後も行いたい。地域の防災訓練や美化活動にもよければ参加してほしい。

【第3回 1月29日（木）】

【作品展見学】

- ・1つずつの作品が「頑張っている」という印象を受けた。色使いなど明るくて元気な感じだった。木工など緻密で素晴らしいと感じた。原山自治会で行う地域での販売などにもぜひ参加していただければ嬉しい。
- ・卒業生の作品を見て成長、つながりを感じた
- ・画一的な作品をイメージしていたが、色遣いや形など個性いろいろでよかった。

【クラウドサービス】

- ・どのようなサービスを活用しているのか

→フォーム作成ツールの活用により集計作業業務が軽減した。

持ち運びできるPC端末導入により、データを共同編集しながらの会議ができ、ペーパーレスになるとともに情報共有が円滑になった。

今後、AIの活用を進めたい。

【学校教育自己診断】

- ・フォーム作成ツールでの回答への移行により、回答率が下がっているのか。
- ・本校でもフォーム作成ツールの活用により、保護者が忘れている感じがある。

→スマホで見ると「後で回答しよう」のまま忘れてしまうことがあると、PTAでご意見があった。締め切り日前日にリマインドすることで、若干ポイントが上がったように思う。今後も回答率を上げる工夫を検討する。

【学校経営計画】

- ・働き方改革について720時間超をなくしたいとのことだが、そんなに残業している教員がいるのか

→本校ではそのような状況はないが、高等学校の部活動等により超えることがある。

- ・以前は中期目標について5年間で100%にするようにとあったが、今もそうか。

→現在は3年後にこうなっているという状況になっている。

【防災について】

- ・防災DAYに参加させてもらった。緊張感のある訓練はとてもよかった。体育館では、遊びの要素を入れた担架リレーや段ボールベッド体験もあった。
- ・被災時クッキングもとてもよかった。とてもおいしくいただいた。

中期的目標		具体的な取組計画・内容	評価指標[R7 年度値]	自己評価
1 自己実現と社会参加を促進するキャリア教育の充実	(1) 組織的・計画的なキャリア教育の実施	ア・地域や関係機関等と連携し、特産物「泉北レモン」の栽培・収穫・加工等に取り組む。 ・職業科の授業を中心に、「泉北レモン」の商品出荷に係る受注作業を行う。 学校経営推進費（R7）『学びのエンゲージメントを高め、自己実現を叶える泉北レモンプロジェクト ～ 地域とつながり、地域で活躍するキャリア教育 ～ 』	ア・各学年での植樹祭の実施（4月中）、就労支援コースによる地域のレモン畑での収穫（10月～11月）、レモンを活用した加工作業の実施（2月までに）〔新規〕 ・受注作業の実施（各コースで実施）〔各コースで実施〕 ・レモンの植樹祭 ・堆肥作り開始 ・枝葉の活用方法を考案 ・レモンレシピを実践 ・泉北レモンPJとし、キャリア教育の観点で教育課程へ組み込む ・調理室の改修 ・各教科で泉北レモン PJ に関連した学習を推進：学校教育自己診断（生徒）「授業で自分の考えをまとめたり、発表することがある」肯定的評価 85%（R6：82%） ・泉北レモンPJを通した他校との連携開始：学校教育自己診断（生徒）「授業や行事で、他の学校や近所の人と交流がある」肯定的評価 48%（R6：45%） ・教員研修で授業の実践を確認：学校教育自己診断（教職員）「学習指導について、学年・教科・学習グループでよく話し合っている」肯定的評価 84%（R6：81%）	ア・各学年で植樹祭を実施済み。就労支援コースによる地域のレモン畑で剪定作業実施済み。レモンの収穫は2月に実施済み。（○） ・職業科の授業を中心に泉北レモンの商品の受注作業（瓶のラベル貼り、プレート作り）を実施済み。（○） ・植樹祭実施（4月）（○） ・堆肥作り2年総合で実施。（5月）完成した堆肥をレモンに施肥実施済み。（9月）（○） ・枝葉の活用方法を2年総合で実施済み。（○） ・レモンのレシピ考案を1年総合で実施済み。レシピ実践は今年度の実施は難しい。（△） ・泉北レモン PJ を生徒たちにも周知。教育課程と連携をとり、シラバスを見直し済み。（10月）（○） ・調理室の改修工事完了。（8月）（○） ・まとめ、発表に関する肯定的回答 90.9%（○） ・交流に関する肯定的回答 50.0%（○） ・話し合いに関する肯定的回答 72.9%（△）
		イ・2年生を対象とした、企業や福祉事業所による出前授業を実施する。 ・就労支援コースを対象に、ロールモデルとなる先輩の体験談を聞き、就労への意識を高める。 ・地域連携を強化しながら、販売実習を実施する。	イ・コース別に企業や福祉事業所による出前授業を実施（1学期に各1回を維持）〔1学期、各1回〕 ・堺市障がい者就業・生活支援センターのピア講座を受講（2・3年生）〔3年生〕 ・地域の区役所やコミュニティーセンター等において販売学習を実施（年4回を維持、実習先を2か所程度に）〔年4回、実習先1か所〕 ア・イ ・生徒向け学校教育自己診断結果における「進路指導」に関する肯定的回答 80%以上〔77.5%〕	イ・2年生生活自立コース、社会自立コースは福祉事業所による出前授業を実施済み（7月）就労支援コースについては企業による出前授業を実施（11月）（○） ・「エマリスぴあ講座」に就労支援コース2年生3年生が2月に受講済み（○） ・南区役所「みなみかぜ交流ひろば」にて、7月と12月の2回、実施済み。「じゅさんあっとさかい」と連携し、健康福祉プラザにて2月に2回実施済み。（○） ア・イ ・進路指導に関する肯定的回答 75.0%（△） ウ・人権教育に関する肯定的回答 75.0%（△） 全校で「いのちの学習」をテーマに授業日を設けるとともに、3年社会自立コースを対象に助産師からの講義を実施。（11月）来年度も同様の学習日を設定予定。
	(2) 交流及び共同学習の推進	ア・校内外でのあいさつ運動を実施する。 ・高校との学校間交流を実施する。 ・地域のコミュニティ活動に参加する。	ア・校内巡回及び校外での活動を実施（各活動を年3回）〔校外での活動を年3回〕 ・高校との学校間交流（年2回を維持し、1・2学期に実施）〔年2回、12・1月〕 ・自治会主催の活動への参加（年2回を維持）〔年2回〕 ・生徒向け学校教育自己診断結果における「交流」に関する肯定的回答 55%以上〔51.3%〕	ア・校内あいさつ運動、7月7.9.11日実施。2月3日～6日実施済み。校外あいさつ運動実施済み。7月8.10日実施。（学級委員の通学手段、登校状況を考えて校内での活動を増やして行った。）（○） ・堺西高校との学校間交流1回目を12月、2回目を2月に実施済み。（○） ・原山まつりに美術作品を出展。原山元気まつりへの軽音部の出場については、生徒の参加者がいなかったため実施できず。（△） ・交流に関する肯定的回答 50.0%（△）
	(3) 外部人材の活用	ア・外部人材を活用し、科学・芸術分野の学びの充実を図る。	ア・各分野での体験型学習（年2回以上）〔年1回〕	ア・総合の時間において1年で5回、2年で6回、3年で5回堺市を通じて出前授業を、外部人材を活用して実施。科学分野では芸術鑑賞会にてモジャ博士のサイエンスショーを実施。（6月）（◎）

府立泉北高等支援学校

2	専門性の継承・向上のために学び続ける教職員集団の形成	(1) 特色ある教育課程の編成	ア・泉北レモン PT を立ち上げ、教育課程検討委員会と連携しながら、特産物「泉北レモン」に係る取組みを、教科等横断的な視点から教育課程に位置づける。	ア・外部講師をオブザーバーとして招聘し、PT 会議を実施（年 3 回以上）〔新規〕 ・12 月までにカリキュラム・マネジメントを行い、関連する各教科のシラバスの見直し・改善を実施〔新規〕	ア・泉北レモン PT を 4 月に立ち上げ、毎月 1 回 PT 会議を実施。桃山学院大学長谷川教授を招聘し会議を 11 月実施予定。メール、オンライン等で随時ご意見をいただく。レモン PJ 関連の研修第 1 回を 6 月実施済み。第 2 回は 2 月に実施済み。泉北レモンに関連する学習内容を教科会に提示し、教科横断的な学びになるようシラバスの単元の見直しを実施しまとめた。(○)
		(2) 組織的な授業改善の実施	ア・自立活動の指導の充実のため、外部専門家を活用した事例検討会や OJT による校内研修を実施する。	ア・事例検討会の実施（年 2 回）〔新規〕 ・校内研修の実施（年 4 回）〔年 3 回〕 ・教職員向け学校教育自己診断結果における「人材育成」に関する肯定的回答 55%以上〔51.5%〕	ア・7/18 第 1 回事例検討会実施。2 回目は 1/8 実施。(○) ・自立活動に関わる校内研修については、4/9、8/29、12/5、※9/18(1・2 年学年団)、※10/3(3 年学年団)、実施。(○) ・人材育成に関する肯定的回答 47.5% (△)
		(3) 教職員全体の指導力向上	ア・カリキュラム・マネジメントに係る先進的な取組み事例を収集し、伝達講習を行う。	ア・管外の先進校への視察（2 件以上）〔2 件〕 ・伝達講習の実施（2 回以上）〔2 回〕 ・教職員向け学校教育自己診断結果における「研修成果の伝達」に関する肯定的回答 85%以上維持〔86.8%〕	ア・東京都の支援学校に視察。学校設備や学級の編制方法、取り組みについて情報を得た。 ・関係教員に詳細を伝達し、職員集会においても視察した概要を伝達。学校運営協議会でも報告を行ったが、回数としては 1 回となった。(△) ・研修成果の伝達に関する肯定的回答 83.1%(R6:86.8%)(△)
		(4) センター的機能の強化	ア・本校版「自立活動の指導のアセスメントシート（課題整理・目標設定シート）」やその活用方法について、地域からの相談支援や学校 Web ページへの掲載を通して情報提供する。 イ・地域支援整備事業の一環として、公開研修を実施する。	ア・地域からの研修・相談支援での情報提供〔新規〕 ・学校 Web ページに「地域支援」のコンテンツを立ち上げ、掲載〔新規〕 イ 公開研修後のアンケート結果における肯定的回答 80%以上〔未実施〕	ア・9/8 和泉市小学校教育研究部会学校見学会にて情報提供済 (○) ・学校 Web ページに掲載済 (○) イ・7/25 公開研修「成年後見制度について」実施 肯定的回答 100% (◎)
3	安全・安心で信頼される学校づくりの推進	(1) 人権を尊重する教育の取組み	ア・全学年において道徳科の年間指導計画を見直し、情報モラルの指導を強化する。	ア SNS 等の利用やネットトラブルの防止に関する内容を、各学期に組み入れた年間指導計画を作成し、実践する。〔1 学期のみ〕	ア・人権教育、SNS に関する研修を各学年学期 1 回組み入れた年間計画を作成し実施。道徳教育も学期に 1 回実施し、昨年度より実施回数を 3 倍にした。3 回目を 3 学期に実施済み。(○)
		(2) 重大な人権侵害事象の防止・根絶に向けた取組みの推進	ア・生徒に対する性犯罪・性暴力の防止に向けた教職員研修を計画的に実施する。	ア・校内 WG にて研修内容を検討し、教職員研修を実施（各学期 1 回）〔年 2 回、9・10 月〕 ・PTA 実行委員会や学校運営協議会、学校ブログにて研修報告〔新規〕 ・保護者向け学校教育自己診断結果における「人権侵害事象への対応」に関する肯定的回答 80%以上〔67.9%〕	ア・校内 WG を 6 月と 10 月、12 月にも実施し、研修の内容とそのフィードバックを行なった。外部講師を招聘し 8/28 に「性暴力とその影響」について、1/9 には「性暴力等の防止」について教職員研修を行い、基礎理念と心理面の知識を深めた。(○) ・PTA 実行委員会や学校運営協議会、学校ブログにて研修の内容を随時報告。(○) ・人権侵害事象への対応に関する肯定的評価 60.7% (△)
		(3) 危機管理体制の確立	ア・学校防災アドバイザーを活用し、地域や保護者と連携したより実践的な防災学習及び避難訓練を実施する。	ア・防災 DAY を設定し、事前の防災学習や防災グッズの使用等に係る体験学習を実施（年 1 回）〔新規〕 ・プレ訓練や実動訓練の実施、安否確認訓練メールの配信（年 2 回を維持）〔年 2 回〕 ・生徒向け学校教育自己診断結果における「安全教育」に関する肯定的回答 88%以上〔88.8%〕	ア・1 月 23 日に防災 DAY を実施。避難所体験や担架リレーなど生徒が楽しいと感じる防災学習を行うことができた。(○) ・9/1 に教員のみでプレ訓練を実施。9/26、1/23 に生徒が校内にいる状態で突発事象対応訓練を実施した。(○) ・安全教育に関する肯定的回答 81.8% (△)
		(4) 開かれた学校づくり	ア・地域や関係機関等による学校見学の機会を拡充する。	ア・公開授業に関する案内を、府立学校に加えて通学区域内の中学校・支援学校、自治会へ配付〔新規〕 ・公開授業期間の設定（年 2 回）〔新規〕	ア・府立学校、通学区域の中学校・支援学校、自治会へ配付済み。 ・6 月、10 月各 5 日間の地域公開授業を実施した。6 月は、8 名 10 月は 5 名の申込があった。(◎)

4 働き方改革の推進	(1) 長時間勤務の縮減	ア・アラーミングメール等を活用して、業務分担の見直しや適正化を図る。	ア・教職員向け学校教育自己診断結果における「校内人事・校務分担の適正化」に関する肯定的回答 70%以上〔67.6%〕	ア・校内人事・校務分掌の適正化に関する肯定的評価 66.1% (△)
	(2) 教職員の意識改革	ア・安全衛生委員会が主催する、教職員の心身の健康増進のための取組みを実施する。 イ・ハラスメント防止研修を実施する。	ア・心身の健康増進の取組み（年3回維持）〔年3回〕 イ・ハラスメント防止研修の実施（年1回、前期）〔未実施〕	ア・7月11月12月と3回の取組みを実施。毎回行う参加者のアンケートも肯定的な意見が多かった。(○) イ・7月28日に外部講師を招聘し、「働きやすい環境づくり」について職員研修を行なった。アンケートで9割以上の肯定的意見があった。(○)